



事業推進と空間形成

周辺地域への社会的影響が大きく、多様な主体が関わる町田駅周辺の交通基盤・公共空間の整備を進めていくうえでは、各主体がそれぞれの事業を進めるのではなく、関係者が互いに連携し合い、効果的かつ着実に、**事業を推進していく**ことが重要です。

その上で、まちの玄関口としてふさわしい駅前空間のあり方や回遊性・交通環境の向上などについて、どのような空間が望ましいかという**空間形成に関する視点**を持って整備を進めていくことが重要です。

- それぞれの視点について以下の通り整理し、第3章以降では、3.1新バスセンター 3.2原町田大通り周辺 3.3歩行者ネットワーク の3つのテーマ、および、3.4エリア全体の取り組みについて、これらの視点を踏まえて具体的な方針を示していきます。
- さらには、3.5 段階的整備イメージとして、これらの整備や取り組みがどのようなステップを経て実現に近づけていくかを示します。

事業推進の重要な視点

① 官民一体による空間形成

町田駅周辺では、民間事業者による開発機運が高まっており、それぞれの開発地区は駅やまちなかと道路やデッキ等で接続しています。それらの交通基盤も開発に併せて更新する必要があります。

官民がそれぞれにまちの整備を行うのではなく、互いに連携し一体的に必要な機能・空間を共有し整備することで、相乗効果を生み出していくことが重要です。

また町田駅周辺には、多くの関係者が存在するため、空間を共有するにあたっての役割分担や交通処理のあり方など、官民一体でまちづくりのルールを共有して進めることが重要です。

→ 公共と民間の空間を一体化して連続性のある街並みをつくとともに、人中心の魅力ある空間形成に向けた官民連携のルールをつくっていきます。

② 段階的な整備による着実なまちづくり

開発地区の地権者の合意形成や多摩都市モノレール延伸に伴う整備は時間を要するため、すべての開発が完了する前でも、開発動向と併せてまちに必要な機能・空間を段階的に整備し、拡張していくことが重要です。

→ 時間が掛かるまちづくりのなかでも、段階的に生まれ変わっていきます。

事例

● 渋谷駅周辺地区

渋谷駅周辺では、複数開発事業者による大規模な民間ビル開発の進行に合わせて、駅や民間ビルを連続的につなぐ歩行者デッキ等を一体整備しています。

民間事業者の公共貢献による豊かな空間創出と、行政による基盤整備が相互に連携する官民の協働によって、駅を中心とした魅力的なにぎわいが形成されています。



駅や民間ビルを連続的につなぐ歩行者デッキ

● 神戸市中央区三宮周辺地区

神戸の玄関口である三宮周辺地区では、市が主導して、民間事業者による開発と併せて、駅前広場や道路など公共空間整備を進めています。

現在も、新バスターミナルの整備などの開発と併せて、複数の駅間をつなぐデッキや広場の整備など、段階的なまちづくりが進行中です。

また、サンキタ通りでは、行政が広場と街路を駅構内等と調和したデザインで一体整備し、民間事業者がオープンテラスを設けるなど、官民連携によるにぎわい形成を実現しています。



開業済み
エリア

【整備進行中】
新バスターミナル

道路空間と沿道の民間施設の一体活用による上質な街並みの創出

【整備進行中】
新駅ビル開発+駅前広場+ペDESTリアンデッキ等

